

## S35b            MAXI/GSC 銀河系外天体カタログ

廣井和雄、上田佳宏、磯部直樹、林田将明(京大)、MAXI チーム

全天 X 線監視装置 (MAXI) は国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」における初の天文ミッションであり、2009 年 8 月のファーストライト以来、常に全天を探索し続けている。MAXI の持つ科学目的のひとつは、トランジェント天体をも含めた新しい全天 X 線カタログを作成することである。MAXI にはガス比例計数管である Gas Slit Camera (GSC) が搭載されており、2-30 keV という高エネルギーバンドをカバーしている。GSC による無バイアスサーベイは、2-10 keV をカバーする全天探索として過去最高の感度を達成すると期待されており、ROSAT 衛星による全天探索では不可能だった吸収を受けた活動銀河核の検出を可能にする。また、狭輝線セイファート 1 型銀河のようなソフトなスペクトルを示す種族に対しては、Swift 衛星、INTEGRAL 衛星による 10 keV 以上の硬 X 線サーベイよりも有利である。

本発表では、2009 年 9 月から 2010 年 3 月までの 7 ヶ月間に取得された MAXI/GSC の 4-10 keV のデータを用いた、高銀緯 ( $|b| > 10^\circ$ ) 天体カタログ第一版の結果について報告する。天体の検出と位置決定には、独自に開発した MAXI シミュレータを用いたイメージフィット法を利用している。探索の結果、 $5\sigma$  以上の有意度で 200 個を超える X 線天体が見つかった。位置精度、多波長カタログとの相関および同定結果についても報告する。